

平成28年度 経済学研究科入学試験問題（一般 II 期）

専門科目：マクロ・ミクロ経済学（理論と応用）

つぎの A、B 二つの問題群の中から、それぞれ一問を選び、解答しなさい。ただし、選んだ問題の番号も明示すること。

[A 群]

[1] 以下の経済モデルを考える。

$$Y = C + I + G$$

$$C = c_0 + c_1 Y$$

$$I = I_0 - d(i - \pi^e)$$

$$G = \bar{G}$$

$$M/P = kY + L_0 - z \cdot i$$

ここで、 Y は国民所得、 C は消費、 I は投資、 G は政府支出であり、 i は名目金利、 π^e は期待インフレ率、そして、 M/P は実質貨幣供給量である。また、 $c_0, c_1, I_0, d, k, L_0, z$ は定数である。この経済モデルを前提に以下の設問にすべて答えなさい。

- (1) IS-LM モデルを作成し、それを図で示しなさい。図には切片や傾きなどを書き込むこと。
- (2) 期待インフレ率 π^e が上昇した場合、IS-LM モデル上でのようなことが起こるかを可能な限り図で示しなさい。

[2] 以下の経済モデルを考える。

$$Y = C + I + G$$

$$C = c_0 + c_1(Y - T)$$

$$I = \bar{I}$$

$$G = \bar{G}$$

ここで、 t は税率であり、 T は税金額である。それ以外の変数は設問[1]と同じである。このモデルを前提として以下の設問すべてに答えなさい。

- (1) $T = \bar{T}$ とする（すなわち、定額税を仮定する）。政府が政府支出を ΔG だけ増加させるために、その増加額をすべて定額税の増加 ΔT で賄うとすると、政府支出の乗数効果はどのようなようになるか数式と図を用いて説明しなさい。
- (2) $T = tY$ である場合、政府支出の乗数効果は(1)と比べてどのように変化するのか。また、ビルトインスタビライザーと呼ばれる現象について説明しなさい。必要ならば数式と図を用いても構わない。

[B 群]

[3] 政府による価格規制に関する以下の各問に答えなさい。

- (1) 政府がある財の市場価格が高すぎると考え、市場価格より大幅に低い水準に上限価格を設定したとする。この政策の効果について経済学的に説明しなさい。なお、この財の需要曲線は右下がり、供給曲線は右上がりであるとす。説明に際しては、必要に応じて図を用いても良い。
- (2) 政府がある労働市場において賃金水準が低すぎると考え、現在の賃金水準よりも大幅に高い水準に最低賃金を設定したとする。この政策の効果について経済学的に説明しなさい。なお、この労働市場の需要曲線は右下がり、供給曲線は右上がりであるとす。説明に際しては、必要に応じて図を用いても良い。

[4] 情報の非対称性に関する以下の各問に答えなさい。

- (1) モラル・ハザードとはどのような現象か説明しなさい(現象が起こる理由に言及すること)。また、その具体例を挙げなさい。
- (2) (1)で挙げた具体例において、モラル・ハザードを防ぐためにはどのような対策が考えられるか。
- (3) 逆選択とはどのような現象か。具体例を挙げて説明しなさい。